



学修支援・教育開発センター



# 2022年度 「龍谷ICT教育 学長賞」 公開審査会

日時 2023年2月17日（金） 15:15～16:15

場所 深草キャンパス 和顔館 1F アクティビティホール  
オンライン（zoom）併用

ICTを活用した授業運営・教育活動を行っている教員や学生の学修意欲向上に努めている教職員を対象として優れた取組を称賛するための制度として創設された「龍谷ICT教育賞」。

2022年度は、3組の取組が「龍谷ICT教育賞」を受賞しました。

このたび、これらの取組についてプレゼンテーションを行っていただき、その中から「龍谷ICT教育 学長賞」を選出するための公開審査会を開催いたします。ICTを活用した教育効果の向上をはかる実践的な取り組みを学内共有する機会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

発表タイトルや概要については裏面をご覧ください。 

対象：龍谷大学教職員および学生

申込方法：下記のQRコードをまたはURLからお申込みください。



<https://forms.office.com/r/g4k34PLNuT>

**申込締切：2月15日（水）**

※オンライン参加の場合、  
接続先URLを申し込み時のE-mail宛にお送りいたします

問い合わせ先：学修支援・教育開発センター（教学企画部）

電話 075-645-2163（内線：1051） E-mail：dche@ad.ryukoku.ac.jp

# 2022年度「龍谷ICT教育 学長賞」公開審査会 プログラム

司会： 学修支援・教育開発センター長／先端理工学部 教授 藤田和弘

## 開会のあいさつ（学長 入澤 崇）

## 「龍谷ICT教育賞」概要説明

| タイトル・申請組織   | 概要   |
|---|--|
| キャンパスを超えた新たな取組<br>教養教育科目特別講義<br>「キャリア入門」の開講<br><br><インターンシップ支援オフィス>                       | 本学では、学生の主体的な学修の動機付けと将来を見据えた職業観・就労観の醸成を目指し、2006年度から全学的な教育プログラム「協定型インターンシップ」を実施している。そして、2021年度には社会環境や学生意識の変化等をふまえてプログラムの改革をおこない、2022年度入学生から教養教育科目特別講義「キャリア入門」と「インターンシップ実習・実習指導」を組み合わせた『RYUKOKUインターンシップ』プログラムを全学部生（短期大学部を除く）対象に開始した。<br>「キャリア入門」では、学生のキャリアプランニング参画の動機づけに資するため、学部やキャンパスの枠を超えて自校史・心理・DX・グローバル・人権・法律・業界研究等の視点からキャリア形成に関連する現代社会の課題やそれらを取り巻く状況についてオンライン授業をおこなった。   |
| 世界的危機をジャーナリストに学び、<br>タイムリーに発信するオンライン<br>研究会「戦争と犯罪」の試み<br><br><犯罪学研究センター>                  | 代表者が所属する犯罪学研究センター（CrimRC）は、戦争という「犯罪」も研究の対象とし、その被害からの救済と根絶に正面から取り組むことを目指して、2022年5月から公開研究会・シリーズ「戦争と犯罪」（全5回）をオンラインで実施した。本研究会の端緒は、法学部専攻科目「法と裁判」及び「演習II」（担当：石塚）にて、ウクライナを現地取材した綿井健陽氏（ジャーナリスト/映画監督）を招いた講演会を企画したことである。研究会の実施にあたっては、ジャーナリストの舟越美夏氏（元共同通信記者/CrimRC嘱託研究員）に協力を仰ぎ、ジャーナリストや研究者、NPO活動家などを講師に招いて、ウクライナやアフガニスタン、ミャンマーなど各地の最新状況や課題について、臨場感をもって報告いただき、チャットやアンケートフォームを通じた質疑応答を通して参加者と共有した。<br>なお、研究会に関しては、①実施概要・②プレスリリース・③レポート・④記録映像を、HP上で即時性と公開性をもって発信し、のべ662名が参加した。時には、入澤学長も参加され、登壇者と直に対話する場面もあった。戦争犯罪の状況や刑事政策のあり方をグローバルな視点で、共に考える機会となった。 |
| UDトークを活用した授業の情報保障<br>ー聴覚情報の処理や聞きながら<br>ノートを書くなどの同時処理が<br>苦手な学生への学修支援事例ー<br><br><障がい学生支援室> | 聴覚情報の処理や講義を聞きながらノート取るなどの同時処理が苦手な学生の学修支援の一環として、聴覚障がいのある学生のために導入した「UDトーク」の提供を始めた。この「UDトーク」は、授業およびゼミにおいて教員の発話をマイクで拾って音声認識を行い、スマートフォンやiPadなどの機器画面にリアルタイムに文字情報として表示することができるコミュニケーション支援アプリである。<br>今年度前期、聴覚情報の処理や講義を聞きながらノート取るといった同時処理が苦手な学生2名から利用の申し出があり、学部教務課および授業担当教員の協力のもと、まず学生1名に活用してもらった。後期においては前期の利用学生を含めて学生4名の利用の申し出があり、現在運用している。   |

## 閉会のあいさつ

※ それぞれ上から順に進めます。1組約15分を予定しています。